

平成30年度
事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	1 ～ 3
特別養護老人ホーム きぼうの苑	4 ～ 6
障害者支援施設 あゆみ苑	7 ～ 9
ケアハウス 夢テラス	10 ～ 11
障害者支援施設 三恵ホーム	12 ～ 14
デイサービスセンター えぐも	15 ～ 16
児童福祉施設 十全保育園	17 ～ 19
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	20 ～ 21
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	22
老人保健施設 希望の館	23 ～ 24
通所介護事業所 おいでんや	25 ～ 26
多機能型事業所 わくわくクラブ	27 ～ 28
放課後児童クラブ ともだちパーク	29 ～ 30
地域子育て支援事業（ひろば型） にこちゃんパーク	31 ～ 32
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	33 ～ 34
グループホーム かがやき	35 ～ 36
児童福祉施設 中萩保育園	37 ～ 40
養護老人ホーム 慈光園	41 ～ 43

三 恵 会 本 部

平成30年度事業報告

1. 経営方針

平成30年度は、社会福祉法の改正後2年目となり、社会福祉法人に求められている「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」について、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するよう運営を実施してまいりました。

「ガバナンスの強化」では、理事会を5回開催し、事業計画、予算、事業定数の変更、各規程の改定、施設長の選任などについて審議・決議をおこないました。

評議員会は、3回開催し、定款の変更、役員の選任、報酬の改定などについて審議・決議をおこないました。

「財務規律の強化」では、会計監査人の導入に伴い、財務情報や社会的な信頼性の向上だけでなく、期中の監査等で指摘をいただけることで、経営上の問題点が把握でき、リスク管理、業務改善にも有効なものでありました。その中で、職員が一丸となって目標予算の達成に向けて努力した結果、平成30年度の法人全体の本業利益では、3億600万円、当期最終利益は、1億7,970万円となり「増収・増益」となりました。

引き続き、目標予算の達成が、法人全体の安定運営に繋がることを意識して取り組んでまいります。

人材確保については、大学、専門学校、高等学校と良い関係を維持できております。採用ツールの見直しなどにより企業説明会、施設見学会への参加人数も増え、採用につながりました。人材確保、経営基盤の安定に必要な不可欠でありますので、学校訪問、各就職セミナーの参加など積極的に活動してまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 予算管理

各主任会、運営会等で予算の進捗状況、経営状況の報告を踏まえた内容が盛り込まれ、予算管理に対する意識が高まってきている。

予算進捗会議の実施までは至らなかった。

(2) 福祉・介護人材確保定着促進対策

福祉人材バンクの創設について継続中である。

(3) 財務・コストの改革

定員適正化計画について継続中である。

(4) 組織・職員の改革

適正な給与制度の構築、昇進・昇格基準の作成について継続中である。

3、研修計画

(1) 法人内研修

①新任職員研修

平成30年4月2日～平成30年4月3日 実施
参加人数 11名（中途採用含む）

②階層別研修（日本経営）

若手層向け研修

第1回 平成30年 6月21日 参加者13名
第2回 平成30年 7月26日 参加者13名
第3回 平成30年 8月22日 参加者12名

リーダクラス リーダーシップ研修

第1回 平成30年 6月22日 参加者17名
第2回 平成30年 7月31日 参加者16名
第3回 平成30年 8月23日 参加者15名

リーダクラス ステップアップ研修

第1回 平成30年 9月18日 参加者21名
第2回 平成30年10月25日 参加者18名
第3回 平成30年11月29日 参加者19名

若手層 フォローアップ研修

第1回 平成30年 9月19日 参加者21名

③情報リスク研修

新居浜地区 平成31年 3月 4日 参加者96名（内8名が本部職員）
東温地区 平成31年 3月 5日 参加者43名

(2) 法人外研修

○平成30年度総会・第1回社会福祉法人セミナー（経営協セミナー前期）

（愛媛県社会福祉法人経営者協議会・愛媛県社会福祉協議会）

平成30年 7月30日 2名

○平成30年度愛媛県老人福祉施設協議会管理職員研修会
(愛媛県老人福祉施設協議会)

平成30年 8月22日 1名

○平成30年度第1回愛媛県社会福祉法人経営青年会研修会
施設見学～社会福祉法人西予総合福祉会～

(愛媛県社会福祉法人経営者協議会・愛媛県社会福祉法人経営青年会・
社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会)

平成30年10月 9日 3名 (内2名が本部職員)

○平成30年度年金委員・健康保険委員表彰式並びに研修会
(新居浜年金事務所)

平成30年11月13日 1名

○平成30年度第2回愛媛県社会福祉法人経営青年会研修会

「若手人材の採用と確保について～学生・若者視点を知り、効果的なアプローチを～」(愛媛県社会福祉法人経営者協議会・愛媛県社会福祉法人経営青年会・社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会)

平成30年11月30日 3名 (内2名が本部職員)

○平成30年度第3回愛媛県社会福祉法人経営青年会研修会

「若手人材の採用と確保について～学生・若者視点を知り、効果的なアプローチを～」(愛媛県社会福祉法人経営者協議会・愛媛県社会福祉法人経営青年会・社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会)

平成31年 3月 8日 3名 (内2名が本部職員)

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

平成30年度 事業報告

1. 運営の概要

平成30年度は、職員間や部署間での情報の共有と職員個々の知識や技術力、資質の向上を図ることに努め、介護事故や苦情を減らし、ご利用者が安全・安心で満足して楽しく生活していただけるように取り組んだが、高齢化と要介護度の進行や認知症等により、転倒などの事故発生件数は例年とほとんど変わらない結果であった。ご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯に対応し十分な説明を行った結果、大幅に減少した。今後も事故防止に最大限の取り組みを行い、入所者の安全な生活をサポートできるよう努力していくところである。

また、各部署で加算の積極的な取り組みや目標数値の達成に向けて努力をした結果、収支の改善に繋がった。引き続き健全な施設運営のため稼働率等の数値目標達成に向けて職員一丸となって取り組んでまいりたい。

地域の在宅支援では、新居浜市地域包括支援センターや他施設、居宅介護・訪問介護事業所等のサービス事業者や地元自治会との情報交換や緊密な連携を図った。また、昨年度に続きご利用者の在宅での健康な生活を維持、支援するための介護計画の立案、担当者会、地域の公民館におけるPPK体操指導などを積極的に行なった。

きぼうの苑開設20周年の節目を迎え、やすらぎの郷文化祭において功労者表彰を行うとともに、職員中心の祝賀イベントを行った。

2. 具体的な取り組みの実績

(1)「誠実な福祉」の実践

- ①職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上に努めた
- ②苦情、要望等への速やかな対応と対策に努めた
- ③災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと訓練を実施した
- ④誠実・真摯に業務に取り組み、利用者・家族との信頼関係の構築に努めた

(2)「確実な知識と技術」の修得

- ①介護研修を継続的に実施し介護職の技術力の向上に努めた
- ②介護事故の検証と事故防止対策の徹底を図った
- ③研修による認知症の理解と介護対応の統一化を図った
- ④介護福祉士の資格取得のための実務者研修受講の支援を行った

(3)「堅実な経営」への取り組み

- ①三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営に努めた
- ②ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスケアを行った
- ③部署ごとの稼働率目標実現に向けた取り組みや経費の節約に努めた
- ④入所待機者の効率的な入所に向けた取り組みを行った
- ⑤やすらぎの郷文化祭の中で、20周年記念イベントを企画し、職員・ご利用者、地域住民の方々と祝賀・交流を図った

3. 研修実施報告

(1) 施設内

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月 接遇について	10月 個人情報・プライバシー保護について
5月 メンタルヘルスについて	11月 感染症予防について①
6月 食中毒予防について	12月 リスクマネジメントについて
7月 褥瘡防止について	1月 感染症予防について②
8月 コミュニケーション技法	2月 虐待防止について
9月 認知症ケアについて	3月 身体拘束廃止について

(2) 施設外

①老人福祉施設協議会関係

四国 愛媛県 東予地区 新居浜市各協議会

②栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修

新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修

③介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修

④介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

4. 行事報告(年間)

4月 合同花見 家族会総会	10月 太鼓祭り 社会見学 防火訓練
5月 新緑ドライブ 機関誌発行	11月 文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月 運動会 神事 菖蒲見学	12月 忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月 そうめん流し ワークキャンプ	1月 お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月 慰霊祭 盆踊り ビアガーデン	2月 節分 バレンタイン
9月 敬老会 観月会 機関誌発行	3月 ひな祭り ホワイトデー 防火訓練

※各クラブ活動 定期的実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

(1) 地域交流

交流事業 やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・金子・西の土居)
施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

②ボランティアの受入

新居浜工業高等学校 新居浜商業高等学校 新居浜南高等学校 今治明德短期大学
天理教 金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌う会
語り部演奏 琴演奏 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス オカリナ演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 傾聴ボランティア 口腔ケア衛生管理

(3) 実習生の受入

① 学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 四国中央医療福祉総合学院
愛媛十全医療学院

② 体験学習

新居浜市役所 職場体験(新居浜市立北中) ウェルカム講座実施
中高生ワークキャンプ

6. 入所利用者状況 (平成31年3月31日現在)

(1) 年齢

	59以下	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100以上	合計	平均
男	0	0	0	3	6	5	4	3	3	1	25	84.2
女	0	0	0	5	9	10	31	18	14	4	91	87.7
合計	0	0	0	8	15	15	35	21	17	5	116	86.9

(2) 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度平均
男	0	1	8	10	6	3.84
女	2	1	11	35	42	4.25
合計	2	2	19	45	48	4.16

障害者支援施設
あゆみ苑

平成30年度 事業報告

1. 運営の概要

平成30年度は職員間や他部署との連携を強化し、職員個々の資質の向上に努めるとともに、接遇力アップのため、正しい言葉遣いと身だしなみ、挨拶の励行に取り組んだ。

介護事故の防止に努めるとともにご利用者、ご家族とのコミュニケーションに努め、ご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や苦情等について真摯な対応と説明を行った。

ご利用者の高齢化による入院や介護保険への移行に備え、新規利用者の獲得のため相談支援事業所や各サービス事業所と情報交換を行い、連携を強化するなどの様々な取り組みを行った。また、特別支援学校との関係強化をはかり積極的に生徒の受入を行った。

あゆみ苑開設20周年の節目を迎え、やすらぎの郷文化祭において職員中心の祝賀イベントを行った。

また、福祉サービスの第三者評価を受審するとともに、地域との連携による防災対策、職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスクエアなどの取り組みを行った。

2. 具体的な取り組みの実績

(1)「誠実な福祉」の実践

- ① 職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上や接遇マナーの改善に取り組んだ
- ② ご利用者、ご家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めた
- ③ 災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと訓練を実施した
- ④ 福祉サービスの第三者評価を受審、職員で協議を重ね、業務改善に努めた

(2)「確実な知識と技術」の修得

- ① 障害特性の把握や理解をより深め、統一した支援体制の徹底を図った
- ② 高齢化が進むご利用者の情報共有に努め事故防止対策を行った
- ③ 職員間の連携と情報共有の徹底を図った
- ④ 介護福祉士の資格取得のための実務者研修受講の支援を行った

(3)「堅実な経営」への取り組み

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営に努めた
- ② ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスクエアを行った
- ③ 部署ごとの稼働率目標実現に向けた取り組みや経費の節約に努めた
- ④ 入所待機者の効率的入所に向けた取り組みを行った

3. 研修計画

(1)施設内（きぼうの苑と合同）

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月	接遇について	10月	個人情報・プライバシー保護について
5月	メンタルヘルスについて	11月	感染症予防について①
6月	食中毒予防について	12月	リスクマネジメントについて
7月	褥瘡防止について	1月	感染症予防について②
8月	コミュニケーション技法	2月	虐待防止について
9月	認知症ケアについて	3月	身体拘束廃止について

(2)施設外

中・四国身体障害者施設協議会 施設長会（研修会）・施設職員研修大会
愛媛県身体障害者施設協議会 施設長会・施設職員研修大会
愛媛県障害者相談支援従事者研修
愛媛県障害程度区分認定調査員研修
通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画（年間）

- 4月 花見 公共乗り物での外出
- 5月 日帰り旅行 街中ツアー 愛媛県障害者スポーツ大会
- 6月 紫陽花見学 合同運動会 神事
- 7月 七夕 花火 ビアガーデン（施設内外） 素麺流し 映画
- 8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 夏祭り 映画
- 9月 日帰り旅行 観月会
- 10月 地方祭 防火訓練
- 11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツアー 焼き芋
- 12月 クリスマス会 忘年会 餅つき 大掃除
- 1月 初詣 書初め 新年会 料理
- 2月 節分 バレンタイン
- 3月 ひな祭り 運動会 防火訓練

*定期行事：買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、陶芸、お茶会、
フラワーアレンジメント、料理教室

*クラブ活動：習字クラブ（第2・4火曜）、生花クラブ（第3木曜）

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1)地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク、自治会・校区防災訓練

(2)ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

②ボランティアの受け入れ状況

新居浜工業高等学校、新居浜商業高等学校、新居浜南高等学校、今治明德短期大学、
天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、
若く明るく歌う会、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、
フラダンス、オカリナ演奏、
口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

＜学校関係＞

十全看護専門学校、松山東雲短期大学、四国中央医療福祉学院、
愛媛十全医療学院

6. 利用者状況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

(1) 年齢

() …入所支援

	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～65	66 以上	合計	平均
男	2 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (3)	4 (1)	9 (2)	3 (3)	30 (9)	48.7 (59.0)
女	2 (0)	8 (1)	2 (1)	6 (2)	6 (1)	7 (3)	2 (2)	33 (10)	44.7 (53.6)
合計	4	12	5	11	10	16	5	63	46.6

(2) 障害者程度区分

() …入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	1 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (3)	17 (6)	30 (9)	5.0 (5.7)
女	0 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	9 (5)	15 (5)	33 (10)	5.1 (5.5)
合計	0	2	6	11	12	32	63	5.0

ケ ア ハ ウ ス
夢 テ ラ ス

平成30年度 事業報告

1. 経営の概要

平成30年度は、職員間や事業所・関係機関との連携を図り、入所のご利用者個々の状態に合わせた生活支援を行うとともに、提供するサービスや年間行事を見直し、ご利用者が日々の生活に潤いを持ち、楽しく充実した生活をお送りいただくことを目標に掲げたが、入居者の方々の高齢化や身体面の状態低下により、利用継続が困難になり、退居するご利用者が何人か見られた。

入所のご利用者が充実した生活を継続することができるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の援助等を行い、長期利用に繋がるよう努めている。

また、新規に入居を希望する人も住居や生活面、健康面などに不安や問題を抱えているケースが多くなってきている。

ご利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の利用ができるよう、施設の環境整備と、職員の知識や技術の向上に努めているところであり、今後も、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が日々安心して楽しく生活できるよう支援し、安定した施設運営を目指したい。

夢テラスも開設20周年の節目を迎え、やすらぎの郷文化祭において職員中心の祝賀イベントを行った。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) ご利用者の高齢化・多様化に合わせた支援の充実

- ① ご利用者個々の心身の状態を把握し、体力低下の予防と健康の維持・増進に努めた。
- ② 関係機関・職種と情報共有に努め、在宅サービスの利用などの調整・援助を行った。
- ③ 緊急時も万全の対応を行い、入居者の心身のケアに努めた。

(2) 利用者が安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備と施設づくり

- ① 茶話会等を通じて、ご利用者の意見や希望を収集し、外出行事や施設内行事を魅力あるものにして、楽しい生活となるよう努めた。
- ② 利用者が円満な人間関係を構築できるよう、支援に努めた。
- ③ 既存設備の点検や修繕を随時実施し、入居者がより安心、安全に生活できるよう生活環境の改善等を行った。

(3) 入居者の確保

- ① ご利用者個々の状態に合わせた支援を行い、長期利用に繋がるよう努めた。
- ② 施設見学者、実習生、ボランティア等に対し施設の概要をわかりやすく説明・PRし、入居者確保に繋がるよう努めた。
- ③ 他事業所のケアマネ等との情報交換を通じて、入所希望者の募集・確保に努めた。

(4) やすらぎの郷文化祭の中で、20周年記念イベントを企画し、職員・ご利用者、地域住民の方々と祝賀・交流を図った。

3. 研修実施報告

- (1) 施設内…三恵会教育部門研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、職員勉強会、合同主任会の実施、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他

- (2) 施設外…全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事報告（年間）

①ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会
上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り

②やすらぎの郷行事参加

なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰霊祭・盆踊り 観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

(1) 地域交流

・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台

(2) ボランティア、実習生

・実習生へのケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等、各種ボランティア団体との交流

6. 入所利用者状況（平成31年3月31日現在）

(1) 月別利用者数（各月1日現在）

人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	6	6	7	7	7	7	6	5	5	5	5	5	71
女	20	20	20	20	20	20	20	20	19	20	20	20	239
合計	26	26	27	27	27	27	26	25	24	25	25	25	310

(2) 月別居室稼働率（各月1日現在）

室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	13	13	13	13	13	13	13	12	12	11	12	12	150
3F(室)	11	13	12	14	14	14	14	14	13	13	13	13	158
合計	24	26	25	27	27	27	27	26	25	24	25	27	308
稼働率(%)	80.0	87.0	83.0	90.0	90.0	90.0	90.0	87.0	83.0	80.0	83.0	83.0	平均 85.5

(3) 入居者年齢

人 歳

	69歳以下	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	0	3	1	1	5	84.6
女	0	0	1	7	8	4	20	88.6
合計	0	0	1	10	9	5	25	86.2

(4) 要介護認定状況

人

	非該当	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ～Ⅴ	合計
男	3	0	0	0	2	0	5
女	3	5	5	4	2	1	20
合計	6	5	5	4	4	1	25

障害者支援施設
三 恵 ホ ー ム

1 経営の方針と現況について

利用者のサービス向上への観点から、自主性を尊重した支援を目指し、「自分らしく心豊かな満足の行く生活」を送っていただくために、利用者のニーズに沿ったサービス提供に努め、また、社会見学、個別外出、ひとり外出、地域交流行事などを実施することにより、社会と交わり、人としての存在意識を感じていただける機会を提供しました。これに併せて利用者の高齢化や障害・疾病の重度化による体力の低下、長期療養などの対策支援も講じました。

また、職員のモチベーションの向上に努め、質の高い介護サービスの提供をめざした意識改革と技術向上に取り組みました。

30年度は施設定員70名に対し、利用者の契約解除が続き、補充においても苦戦し稼働率94%の66名の実績となりました。

「短期入所」及び「地域生活支援」の稼働率は、28年度63%、29年度70.9%と着実に伸びておりましたが、30年度はインフルエンザによる受入れ中止や日中一時支援の利用者の減少により、57.1%の実績となりました。

また、「指定特定相談支援事業所」においては利用者の出入りはあるものの現状維持の約110件となっております。

収支決算において、収入は「生活介護」及び「施設入所支援」では、新規利用者の補充に苦戦を強いられ、収入減となりました。指定特定相談支援の実績は前年度と同等となっております。また、支出では管理費の節約に努めた結果、施設全体として前年度に引き続き、収支の均衡を維持し、概ね健全な経営を維持することができました。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 設備等の整備では

利用者の高齢化や障害の重度化が進む中で、職員の介護に係る負担軽減を図るためにスライディングボード・シート、移乗シート、ポジショニンググローブなどの整備し活用を行いました。

(2) 職員の確保について

職員の確保は、依然として看護師、生活支援員、調理員等の職種について、極めて厳しい状況が続いており、新規学卒者だけでなく、中途採用者についてもハローワーク、人材派遣や職員の知人など様々なルートを通じて確保に努めました。

また、職員の定着のためのきめ細かいサポート、計画的な育成・指導にも努めました。

(3) 利用者の思いを尊重し、利用者に関わる時間を多く持ち、利用者個々の考えや思いに耳を傾けるよう施設全体で努めました。

(4) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

利用者のご希望・思いを実現するために個別支援計画に沿った支援に努め、満足に繋げました。また、接遇マナーを強化し、利用者やご家族、地域の人との良好な関係に努めました。

(5) 施設内研修、外部研修へ積極的に参加し、資質の向上を図り、また、様々な資格取得にも挑戦を行い、人材育成に努め、介護サービスの質の向上に努めました。

また、今年度も喀痰吸引等の行為の養成研修に生活支援員、1名資格取得することができました。

(6) 地域に愛され、信頼される開かれた施設

- ・地域の方との良好な関係を築けるよう、接遇マナーの更なる強化、地域の方との良好な関係作りに努めました。
- ・社会福祉協議会等が実施する地域行事へ積極的に参加し、地域の方との交流を積極的行いました。
- ・ボランティアの受け入れを積極的行いました。

3 研修計画

(1) 施設内

- ① 年間研修計画（毎月1回）に基づく実施
- ② 施設内研究の充実と施設内発表会の開催

(2) 施設外

- ① 全国身障協 職員研究大会
- ② 中四国身障協 施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会
- ③ 県内身障協 職員研修会、サービス管理責任者研修会、職員研修大会
- ④ 職種別専門研修会
- ⑤ 三恵会本部主催の職員研修

4 行事予定

- ① 4月 お花見、地域交流三恵ふじ祭り
- ② 5月 愛媛県障害者スポーツ大会
- ③ 6月 防犯訓練
- ④ 7月 カラオケ大会
- ⑤ 8月 地域交流三恵盆踊り大会
- ⑥ 8・3月 防災訓練（地震、土砂災害想定、火災夜間想定等）
- ⑦ 10月 蛭子神社大祭
- ⑧ 12月 餅つき大会、クリスマス会、忘年会
- ⑨ 1月 新春ゲーム大会、鏡開き
- ⑩ 2月 節分豆まき、カラオケ大会
- ⑪ 4月～12月 個別外出

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ① 地域交流ふじ祭り
- ② 地域交流三恵盆踊り大会
- ③ 東温市身障協助会との交流
- ④ 川内保育園との交流
- ⑤ 重信中学との交流

(2) ボランティア活動

① 職員ボランティア活動

- ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり
- ・国道 11 号歩道の生垣の清掃 隔月 1 回

② ボランティアの受入れ

- ・川内町婦人会 ・創価ボランティア ・HATACHI の会
- ・さくらコーラス ・原田民謡教室 ・お話し笑みさん
- ・傾聴ボランティア ・伊予銀行 ・愛媛銀行
- ・河原医療福祉専門学校・松山東雲短期大学 ・愛媛調理師専門学校
- ・聖カタリナ大学 ・松山城南高校 福祉科 ・愛媛十全医療学院

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校・松山城南高校(福祉科) ・愛媛大学

デイサービスセンター
え ぐ も

平成30年度えぐも事業報告

1. 経営方針

通所介護事業では、各関係機関への新規利用者の紹介依頼や、各公民館単位での民生委員や老人クラブ会長等を介して地域住民への施設PRに努め、2ヶ月単位で約1名程度ではありますが、新規利用へと繋げてまいりました。反面、利用者の要介護度の悪化による施設や医療機関への入所・入院等も相次ぎ、当初の目標課題であった利用者の増員とまでは至りませんでした。

また、利用者の中には、家族からリハビリを目的とした通所リハへの変更希望も見られ、年度をまたいでサービスの見直しを図り、今後は、専任の機能訓練指導員を配置し、利用者の機能低下防止に向けたリハビリの強化や、やがては要介護者となり得る要支援相当利用者の確保に全力で取り組む所存です。

居宅介護支援事業では、医療機関を始め、他職種間との連携強化により、情報の共有化を図り、より良い利用者個々に適したケアプランの作成に努めました。今後は、認知症高齢者の増加が予想されており、本人だけでなく、家族にも配慮したケアマネジメントに取り組んでまいり所存です。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 新規利用者の確保

- ・各地区の活動状況へのキーパーソンとなる、区長・民生委員等からの情報収集に力を入れ、えぐもの紹介や良好な関係を築くことに努めました。
- ・地域住民を対象とした、えぐも温泉入浴体験利用を実施し、利用開始に向けた働き掛けに努めました。
- ・毎月の経営会議を実施し、職員間での利用者増員に向けた意見交換会の実施に努めました。

(2) 運営推進会議の活用

- ・各委員からの要望・助言等を真摯に受け止め、運営に反映させました。

(3) 地域住民との密接な繋がりを築く

- ・地域行事へは積極的に参加し、住民との交流に努めました。
- ・公民館単位で、えぐもの催しやサービス内容を紹介し、来訪に向けたPRに努めました。

3. 研修計画

(1) 施設内

- ・併設施設の三恵ホーム施設内研修 6回

(2) 施設外

- ・ 県老施協研修 2 回
- ・ 中予老施協研修 2 回
- ・ 三恵会研修 2 回

4. 行事計画 (年間)

- ・ 社会見学 年 12 回
- ・ 敬老演芸会 9 月
- ・ 誕生会 毎月 12 回
- ・ クリスマス会 12 月

5. 実習及びボランティアの受け入れ

- ・ 尺八演奏会 (四季の会) 4 回
- ・ カラオケ同好会 2 回
- ・ 伊予民謡研究会 4 回
- ・ 楽器演奏 (東音チャイム) 4 回
- ・ 俳句会 24 回

兒童福祉施設
十全保育園

平成30年度事業報告

1. 経営方針

平成30年度から施行された「保育所保育指針」においては、3歳未満児の保育が重視されていること、3歳以上児の保育に関しては教育的側面が積極的に位置づけられていることが、主な改正部分でした。施行においては、不透明な部分もありましたが、もう一度保育を見直す良い機会ができたと思います。また、保育所職員の処遇改善では、「処遇改善Ⅱ」が創設され、キャリアアップ研修が義務付けられ、内容の濃い研修が進められました。

園内に目を向けると、細かな要望を伝える保護者が増えてきたこと、保護者の考え方が大きく変遷している状況があり、保育園の方針や考え方を伝えることが多くなってきました。そのため、保護者に対してわかりやすく説明を行い、誤解が生じないよう、保護者に向き合い、些細な事でも連絡し理解を求めていくことに力を注いでいきました。

また、行事や保育内容においては、マンネリ化しないよう、保育のねらいや課題を確認し、児童の成長を保護者と共に喜び合い、次への成長のステップとなるよう保育を進めました。

職員間では、乳児クラス・幼児クラスの枠を越え協力し合い、計画的に行事に取り組む姿が見られました。各職員がそれぞれの立場で専門性を発揮し、自分のやりがいを感じることができた年度になったと思います。今後も、地域や保護者に求められ、信頼される保育園の在り方を考えつつ保育を進めていきたいと思っています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・保育の中で、ヒヤリハットの記録を丁寧に行い、意識してけがの予防を行ったため、大きなけがはなく過ごすことができました。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・発達支援課に通い、支援を直接受けていることもあり、今年は巡回相談を行いませんでしたが、保護者と話し合いを重ね、保護者の悩みを聞き発達支援課との連携をとり、次の手立てを明確にするため、発達診断を受け、アドバイスを活かしていきました。

また、行事の取り組み等により、障害児の発達が促され、今までの保育の成果が、保育現場で確認できたことが良かったと思います。

- ・年度末には、昨年に引き続き「保育評価」を実施し、自分自身の保育の振り返りを行いました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上について

- ・キャリアアップ研修では、計画的に研修に参加することができました。しかし、研修内容が具体的に保育現場で活かせず、他の職員に伝えきれなかったことが今後の課題となりました。

②職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めました。特に栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができていました。
- ・幼児クラスにおいては、連携・協力し合い、行事において、アイデアを出し盛り上げることができました。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・児童数に対して、適切な保育士の配置を検討し、その中で、いかに中身が充実した保育が行えるか意識していきました。その結果、積立も多くでき、この数年できなかった大きな修繕や固定資産となる物品の購入を行うことができました。今後も継続して安定し、将来につながる修繕や購入を吟味していきたいと思います。
- ・昨年度、保育園東の駐車場購入により、近隣からの車に関する苦情は全くなり、保護者自身も余裕をもって安全に送迎を行うことができるようになりました。また、行事の時の駐車場利用も定着し、他の敷地に駐車する保護者もいなくなりました。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会（月1回）
- ・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会部会（園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食）
- ・日本保育協会主催研修
- ・給食担当者会議
- ・三恵会主催研修
- ・人権教育研修
- 等

4. 行事实績(年間)

- 4月 入園式・健康診断・家庭訪問
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・歯科検診
- 6月 保育参観・クラス懇談会・夕涼み会
- 7月 七夕会・プール開き
- 8月 プール大会・ライン引き・デイサービス交流
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
交通安全教室・歯科検診
- 11月 のま馬ハイランド遠足(年長児)・七五三・職場訪問(警察署、西原郵便局)
火遊び防止教室・シルエット劇場観劇
ブーク人形劇観劇・健康診断
- 12月 保育参観・もちつき・クリスマス会
クリスマスコンサート参加(十全総合病院)
- 1月 記念撮影・新居浜ネットワーク撮影
- 2月 節分・生活発表会(たのしいあつまり)・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室・乳児遠足・お別れ遠足・お別れ会・卒園式
(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流状況

- ・お誕生会 ・夕涼み会 ・デイサービス交流
- ・運動会 ・「たのしいあつまり」(生活発表会) 等

(2) ボランティア状況

《夕涼み会》

- ・十全看護専門学校 計 20名

(3) 実習生受け入れ状況

- ・十全看護専門学校 (小児看護学) 32名
- ・新居浜西高等学校 (体験学習) 22名

計 54名

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

平成30年度 事業報告

ハートランド三恵

1、経営方針

厳しい報酬環境の中、根本的な入所指針の変更と北館の運営方法の再検討特に夜勤体制の再考と介護職員の配置状況の見直し等を行い懸案である赤字体質からの脱却が達成できた。また、入院者の減少目標も対前年465名減になった。これは現場でのより徹底した感染予防対策や細かいCURE & CAREの達成と考えます。結果的に収入で対前年4800万増になり最終損益で対前年約4000万増となり、30年単年度では1250万の黒字計上し次年度への地盤作りを達成できました。

また、地域交流への対応も計画どうりの実施を行ったものの反応（来客数）の悪さがあり、次年度への再考を要する状況になった。よって、地域貢献の観点で次年度運営計画を練る事とした。

2、重点課題、具体的な取り組み事項

（1）利用者を大切な人として

①職員間の情報共有と確実な実践に関して

- ・まだ不十分な部分はあるものの概ね良くなっている

②5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動の徹底

- ・口を開けば5S位徹底したが整理・しつけの部分が十分でない

（2）人財育成の充実

①自分で考え、行動できる職員の育成

- ・相手を思いやり敬意を払える心の形成が不備であった

②施設内研修の充実

- ・計画どおり実行できた

（3）事故防止対策の充実と地域支援への取り組み

- ・利用者の入院減を図るは一定の成果はあった。
- ・地域交流会の目的の見直しについて計画実行したが再度見直しを行った。

3、研修計画

- ・施設内研修の内、全職員対象研修は概ね実行できました、部署毎研修は計画に基づいて実施しました。
- ・施設外研修は一部実施できてないものがありました

4、行事予定

- ・共通行事及び月別行事共に予定どおり実行しました。

5、地域交流、ボランティア、実習生

- ・地域交流では継続開催のみ再考する必要があるが他は計画どおり実行
- ・ボランティア活動は計画どおり実施しました
- ・実習生の受け入れも予定どおり行いました。

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

平成30年度 事業報告

リハビリステーション三恵荘

1. 経営方針

平成30年度、経営状況においては目標としていた事業活動収入5億オーバーを達成することができました。しかし長期入所利用者の高年齢化、重度化により安定した療養生活を維持することが困難な利用者が確実に増加しています。結果、平成30年度稼働率91%と目標としていた95%には遠く及ばず、延べ入所者も対前年614名の増で終わりました。また「在宅復帰支援機能加算」の算定においても3か月しか算定ができておらず、次年度はどのようにして空床率を少なくするか、安定的な加算の算定ができるようにするにはどうすべきか重要な課題として残っています。

通所部門においては継続した営業活動、柔軟な受け入れ対応により一定の成果があり対前年1703名の利用増がありました。今後も安定的な経営が継続できるよう努力していきます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

「誠実な福祉」:利用者の意思を尊重した個別ケアの実施。

「確実な知識と技術」:認知症教育の実施。各種研修会への参加による知識、技術の習得。

「堅実な経営」:利用者の地道な掘り起し。適正人員配置の堅守。

3. 研修計画 施設内:リスクマネジメント、感染予防、食中毒予防、各部署輪番による勉強会の実施。

施設外:全老健全国大会、認知症研修(ユマニチュード)他

4. 行事予定:ほぼ計画通り実施できました。(感染症にて一部未実施)

5. 地域交流、実習生、ボランティアの受け入れ

地域交流:生き生き幸せフェスティバル、太鼓台訪問、大生院、中萩校区文化祭協力、大生院地区せせらぎ食堂

ボランティア:歌レク(地域有志)、その他

実習生受け入れ:新居浜南高校生実習

老人保健施設
希 望 の 館

平成30年度事業報告

1. 経営方針

今年度事業計画で掲げた「数値目標」に向け取組んだ結果について報告する。

目標：入所関係稼働率 96%、在宅復帰率 50%or 回転率 10%⇒「強化型」を視野に

結果： " 94.7% (8月「超強化型」到達) ⇒来年度は「維持継続」を！

目標：通所リハ稼働率 80% (介 19+支 5=24/日) ⇒「変化」への柔軟な対応を

結果： " 71.2% ⇒来年度は「組織体制を見直し」改めて目標達成を！

目標：居宅月間契約数 144 件 (1 人平均 36 件) ⇒「通りハ」目標達成への支援

結果： " 150 件 (" 37.5 件 ⇒来年度は更なる「通りハ支援」を！

- 入所部門：今年度の平均稼働率（入所＋短期）は 94.7%であった。（対前年度比－1.5%）
評価のポイントは、昨年 8 月一気に「超強化型」に到達 ⇒維持出来た点である。
因みに超強化型による増収効果は約 2000 万円（860 円×94.7 人×243 日）であった。
今回得た「達成感」は、今後大きな自信と誇りに繋がるものと確信している。
- 通りハ部門：今年度の平均稼働率は 71.2%であった。（対前年度比＋1.4%）
今年も目標（80%）には届かず、結果として通所リハ単体で約 550 万円の赤字であった。
このことについては、スタッフ個々も経営者として当事者意識を持つことが肝要であり、
今後は、組織体制を見直し確実な「黒字化」に向けて取り組みたい。
- 居宅部門：今年度の月平均契約数は 150 件であった。（対前年度比＋5 件）
契約件数はこの 2 年間で月平均 20 件（年間 240 件）増加しており、居宅単体としては
約 170 万円の黒字であった。ただ、課題はこの流れを如何に通所リハに繋げるかである。
今後は、居宅部門にリハビリ、栄養部門を含め「在宅部門」と位置付け、部門長ポスト
を新設する等体制を見直し、現状（閉そく感）を打破したいと考えている。

以上、今年度も入所部門の「超強化型」到達という予想を上回る成果のお陰で安定した経営が出来た。これは施設長以下スタッフの努力の賜物であり心から感謝したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み （評価：◎出来た ○ほぼ出来た △要努力）

（1）「誠実な福祉」の実践

- ①「感染症から利用者を護る」≦「感染した時にどう対応できるか」が重要…◎（利－0）
- ②「在宅支援」の視点（在宅復帰した後のフォローを） …○
- ③「接遇力のアップ」（気持ち良い挨拶と丁寧な言葉遣い…基本を大切に）…△

（2）「確実な知識と技術」の習得

- ①「チーム力アップ」（全ての職種が連携と協働の原点に立ち返る） …○
- ②「誤薬事故防止」（現在あるルールを皆で徹底すれば防止可能） …△（9 ⇒4 件）

（3）「堅実な経営」の維持

- ①「新・介護報酬」への対応（新たな加算獲得等に向けた勉強会実施）…○
- ②「塵も積もれば山となる」⇒皆が 1 %の経費節減を心がける …◎
- ③「在宅復帰支援体制」の強化（引き続き防げる入院を防ぐ） …○

3. 研修計画

(1) 施設内

新入職員研修 感染予防勉強会 認知症関する勉強会 褥創予防に関する勉強会 事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 プライバシー保護 接遇研修等 職員健診後、Dr の指導・管理栄養士の指導 メンタルヘルス研修など

(2) 施設外

三恵会法人研修 介護職員による喀痰吸引等研修
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者講習
老人保健施設四国ブロック大会 ターミナルケア研修
愛媛理学・作業療法士学会 介護支援専門員更新研修
その他虐待・身体拘束、褥創、感染、事故予防等に関する研修など

4. 行事計画（年間）

4 月 お花見
5 月 アニマルセラピー やかた祭
6 月 風船バレー大会
7 月 七夕会、ビアホール
8 月 夏祭り喫茶
9 月 敬老会
10 月 運動会、地方祭
11 月 文化祭（東温市）
12 月 クリスマス・忘年会、お餅つき
1 月 新年会
2 月 節分
3 月 春の演奏会、菜の花ドライブ

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ（月 2 回）、民謡教室（月 1 回）、書道教室（月 1 回）、華道教室（月 1 回）オカリナ演奏（月 1 回）、ショッピング（月 2 回）、ともしび会（月 1 回）、サマーボランティア（年 1 回）、ウインターボランティア（年 1 回）傾聴ボランティア（月 1 回）など

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 愛媛医療福祉専門学校 愛媛大学医学部
河原医療大学校看護学科

通所介護事業所
おいでんや

平成30年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

1. 経営方針

事業計画に掲げていた「自立支援」「重度化防止」に繋がる質の高いサービスの展開・生活機能向上連携加算（外部リハビリとの連携）・アウトカム評価については十分な取組はできませんでしたが、年度途中から中重度者ケア体制加算を算定することができ、収入面で大きなダメージを受けることは避けられました。

利用者に喜ばれる・無くなると困る・選んでもらえる事業所への成長という目標は達成できたと思っています。現に、入院生活を余儀なくされた利用者から「早よ帰って、おいでんやに行きたい!」との声をたくさんいただきました。

2. 重点課題

1) 稼働率の向上

① 数値目標（1日23.5人）に関しては、11月に7名の利用者が体調不良を起こしたのを皮切りに長期入院、自宅療養、施設入所、また、年が明けて2月にはインフルエンザ等のため、目標達成は出来ていません（1日19.3人）。

② 毎月2回の居宅介護支援事業所の訪問は欠かさず継続できました。

2) 職員の資質向上

社会人、組織人として基本のハウレンソウ（報告・連絡・相談）にプラスして、ソーセージ（創意工夫・整理整頓・時間厳守）に取り組んでいましたが、まだまだ充分ではないと感じる部分が多くありました。

3) 独創性を加味したサービスの提供

毎月の外食、季節のドライブ、買い物、春と秋の個別外出を計画に沿って実施できました。それぞれに喜んでいただけたように思います。他事業所との交流は、情報交換のみになってしまいました。

4) 交流・ボランティア

毎月定期的にお世話になっていた絵手紙や書道、お手玉のボランティアさん達でしたが、ボランティアグループの高齢化や家庭の

事情などで次第に来館してくださる回数が減り、寂しくなりました。毎年恒例の夏まつりでは、地域の方との交流が図れました。

5) 記録の充実

報告書や提出書類など、徐々にOA化が図れてきました。

3. 研修実績

計画に挙げていた施設内研修（全体会他）にも施設外研修（老施協・講習会他）にも積極的に参加しました。特に、30年度に関しては、老施協主催の研修には部署の全ての職員が、まんべんなく参加することができました。

4. 年間行事報告

- ・7月の夏まつり、12月のもちつき大会、3月の館長杯カラオケ大会の館内合同行事は全職員の協力もあり、計画通りに実行できました。
- ・予定していた芍薬見物や太鼓台見物などについては、利用者からのニーズも乏しく計画を中止したものもありました。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり（合） ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき（合） ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め	・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・防火訓練 ・カラオケ大会（合）

※ 毎月開催行事・・・ 外食・買い物 音楽療法（ピアノ演奏）
ともだちパークと交流 おやつ作り
十全総合病院より売店来館

多機能型事業所
わくわくクラブ

平成30年度 事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

障害の重度化や超高齢化に対応できる事業所になるように取り組みました。

生活介護事業は職員の資質向上を図り、利用者、家族及び地域生活のニーズに細やかにより添える事業推進が必須と考えて取り組みました。

放課後等デイサービス事業所が市内でも急激に増加し、また平成30年度の報酬・基準改定でも厳しい内容となっておりますが、何とか逆風に立ち向かうことが出来ました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 職員のモチベーション向上

特別支援学校との情報交換・連携を密にし、実習生の受け入れや入学者・卒業者の動向を把握し、受け入れについて職員の資質の向上を含め体制作りに努めました。利用者の増加には残念ながら結び付けることが出来なかった。

放課後等デイサービスにおきましては、地域の幼稚園・保育園との情報共有に努め、職員一人一人のスキルアップを図り、選んでいただける支援体制の構築に取り組み前年並みの利用実績は確保できました。

(2) 支援内容の充実

① 個別支援計画に沿った支援の充実

生活介護事業・放課後等デイサービスともに、ご利用者及びご家族が、安心して地域生活を送ることが出来るような個別支援計画の策定や実践を積極的に推進してきました。

② 多様な活動の場の提供

生活介護事業の枠にとらわれず、一人一人が自らの能力を最大限に発揮し、自己実現できるよう支援して参りました。放課後等デイサービスにおいても、学びと育ちの支援、卒業後の自立に向けた支援への対策を進めて参りました。

③ 社会参加の促進

愛媛県障がい者スポーツ大会への参加をはじめ、作品展への出品など様々な地域行事に参加し、日々の活動内容等を発表できる機会を通じ、利用者のより豊かな社会参加が出来るよう努めて参りました。

(3) ネットワークづくり

家族交流会を開催し、利用者・家族・職員間での情報交換や連携を図り、相互理解を深めることが出来ました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修を実施しました。館内各委員会(虐待防止・リスクマネジメント・感染予防等)による研修及び外部講師による研修等を行いました。
- ・生活介護・放課後等デイサービスに関わる職員として、必要な知識やスキルアップのための勉強会や研修をフロア会等において事業所内で実施しました。

(2) 施設外研修

- ・三恵会法人研修および関係機関からの研修案内には出来る限り参加。
- ・福祉関係機関からの研修情報を活かし、福祉施設職員として資格取得や毎日の支援の根拠となる知識・技術・価値の習得に努めました。

4. 行事報告

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・河川敷での運動 ・あかがねミュージアム ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・愛媛県障がい者スポーツ大会参加 ・ジャングルコンサート参加 ・医師の健診 ・合同カラオケ会	・ドライブ・外食 ・おやつ作り ・外食・工場見学 ・じゃがいも販売	・七夕祭り ・夏祭り(合同行事) ・福祉の集い参加 ・買い物練習 ・公園外出
8月	9月	10月	11月
・スイカ割り大会 ・放課後等デイサービス一日外出 ・おやつ作り ・医師の健診	・滝の宮公園 ・消防訓練 ・生活介護一日外出(日本食研工場見学) ・敬老の日の交流行事	・おやつ外出 ・地方祭 ・公園外出 ・生き生きフェスティバル ・さつまいも販売	・校区文化祭 ・やすらぎ文化祭 ・買い物練習 ・医師の健診 ・合同カラオケ会
12月	1月	2月	3月
・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・クリスマス会 ・もちつき ・イオン作品展	・初詣 ・成人のお祝い ・抱負絵馬作り ・外食 ・カラーリング教室	・節分 ・おやつ作り ・医師の健診 ・家族交流会 ・カラーリング大会	・ひな祭り ・お疲れ様会 ・消防訓練 ・カラオケ大会 ・お花見

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用・他事業所との交流等も行う。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

平成 30 年度 事業報告書

放課後児童クラブ（ともだちパーク）

1. 経営方針

(1)働く女性の支援

『安心して子どもを育てながら、働きたい』の働く女性支援の原点に、安全に生活が出来る場所として、子どもたちの成長を保護者の方と一緒に喜びあうことが出来ました。

(2)交流の場

今年度は、1年生の利用者が4月12人、登録者合計数57人でスタートしました。
家庭の事情などで8月1年生14人、登録者62人となりました。

地域や異年齢とのかかわりの中で、子ども達も、色々な経験や友だちとのつながりが出来ているのを実感する出来事がたくさん有りました。

今年は、4人の6年生が卒業しました。

(3)民間の児童クラブの特徴

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営ができました。

保護者のニーズとして、スイミングの送迎バスが施設前に来て下さるので、曜日より数人ですが、バスに乗り、スイミングに送り出しました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)利用児童の定員確保・パンフレットの見直し

- ・平日構成する利用希望者の児童数平均36人~45人を目指し、年間平均36人になりました。
- ・パンフレットの見直しをおこない、川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に入会案内書を、放課後等デイサービスと一緒に配布しました。
- ・三恵会、十全グループの職員割引（登録料）を実施
- ・重要事項説明書を説明や個人情報など、利用者保護者の同意書を頂きました。

(2)放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・利用者の病気や食物アレルギー等を把握
- ・来館時の手洗いやうがいを行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせてのお迎えと共に交通安全
- ・ひとりひとりへの言葉かけの配慮とともに保護者への連絡

(3)遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、ひとりひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導を図りました。
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え、声かけを行いサポートしました。
- ・夏休みには、子ども達が楽しく過ごせる取り組みを行いました。

今年度の新しい取り組みとして『住友別子記念館』『あかがねミュージアム』に行き、地元の文化に触れました。

(4)基本的生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ

- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくような声かけ

(5)発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行いました。

(6)職員の心構え

- ・フロア会を随時行い、共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流・高齢者施設ゆうらり慰問
- ・放課後等デイサービスとの送迎時の交流
- ・館内合同行事の参加（誕生会・夏祭り・もちつき・館長杯カラオケ大会等）

3 行事報告

1 学期	・東浜公園・神郷公園・お話会（回転木馬）
夏休み	・合同行事～夏祭り・誕生会 ・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び・神郷公園・陶芸の絵付け ・虫取り・ホットケーキ作り・ラスク作り ・お楽しみ会（ビンゴゲーム・新聞ゲーム等）・ゆうらり慰問 ・高専出前講座『液体窒素の実験』 ・出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』 『お話会（回転木馬）』 ・ボランティア『食育講座』・十全看護学校看護学生との交流 ・住友別子記念館・あかがねミュージアム ・おいでんやの食事配膳の手伝い・にこちゃんパークの誕生会等
2 学期	・合同行事～もちつき大会・神郷公園・黒島海浜公園 ・敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバルの作品作り ・クリスマスの飾り付け・クリスマスケーキ作り・避難訓練 ・牛乳パック工作・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示 ・にこちゃんパークの誕生会等交流
3 学期	・初詣（八幡神社）・合同行事～館長杯カラオケ大会・避難訓練 ・東浜公園・折り紙・紙飛行機・なわとび・黒島海浜公園 ・にこちゃんパークの誕生会等
<外出>	・東浜公園・黒島海浜公園・神郷公園・多喜浜体育館・八幡神社 ・ゆうらり慰問・住友別子記念館・あかがねミュージアム
<出前講座>	・液体窒素実験（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ ・たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室
<ボランティア>	・食育講座・十全看護学校看護学生

※ 毎月 「おいでんや」との交流を実施

※ 随時 「にこちゃんパーク」との交流を実施

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

平成30年度事業報告書

地域子育て支援事業 (にこちゃんパーク)

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

乳幼児の親子が安心して過ごせる場所として、予約無しで利用でき、ゆったりとした雰囲気が喜ばれました。

(2) 子育て相談

子育て中の親子同士の出会いを通して情報交換など交流も見られました。

(3) 情報の共有

市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業全8施設で、情報交換を行い、交流を持つことで、よりよい支援に繋がりました。

2. 重点課題と具体的な取組

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進が出来ました

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・ 市政だよりに掲載の曜日・時間を記載し、電話での相談を受ける。
- ・ 子育て支援課の紹介で、子育てに不安な親子（母親）が来館し、不安が少しでも解消できるようなかかわりを持ちました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・ 市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲載、川東の公民館・十全総合病院にもにこちゃんだよりをおかさせていただきました。
- ・ 利用者様の口コミでも、新しいご利用者様も増え、弟や妹が産まれ遊びに来てくれる方もいます。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・ つくってあそぼうで毎月季節が感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・ 季節感の有るカレンダー作りを行いました。
- ・ お話会（回転木馬）や木の球プール（大五木材）・親子でヨガ（村上氏）のボランティアに定期的に来て頂きました。

3. 研修報告

- ・ 市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業施設・全8施設の連絡協議会（年6回）に参加

4. 行事報告

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会（写真と手形入り誕生カード）

つくって遊ぼう（工作）・身体測定（成長記録カード）

親子でヨガ・カレンダー作り・子育て相談・親子交流会

随時：小学生・高齢者・障がい者との交流

子育てサークル場所の提供（ハーバリウム作り等）

ランチタイム（12:00 から 13:00）

年3回：木の球プール

行 事 報 告

	つくって遊ぼう カレンダー作り	誕生会・親子でヨガ・お話会(回転木馬) 身体測定・その他
4月	かぶと 5月：こいのぼり	小学生による誕生会（絵本・歌・踊り）
5月	ビックリヘビくん 6月：てるてる坊主と傘	小学生との交流 リズムあそび(親子の触れ合いあそび)
6月	時計 7月：朝顔	木の球プール(大五木材)・高齢者との交流 しゃぼん玉あそび
7月	七夕飾り 8月：ひまわりとせみ	小学生との交流・館内合同（夏まつり） 高齢者との交流・市役所ロビー展 ハーバリウム作り
8月	コロコロ水槽 9月：コスモスとトンボ	小学生による誕生会 （クイズ・紙芝居・踊など） ハーバリウム作り
9月	クルクルストロー 10月：ぶどう	避難訓練・紙風船あそび 高齢者との交流・ハーバリウム作り
10月	太鼓台 11月：キツネと紅葉	小学生との交流・楽器あそび お祭りごっこ・ハーバリウム作り
11月	風車 12月：クリスマス リース	校区文化祭に写真展示 リズムあそび(親子の触れ合いあそび) ハーバリウム作り
12月	クリスマスツリー 1月：獅子舞	木の球プール(大五木材)・風船あそび 楽器あそび・小学生との交流 館内合同(もちつき)・ハーバリウム作り
1月	鬼の面 2月：鬼とおかめ	年賀状・踊り・小学生との交流 親子の触れ合いあそび・ハーバリウム作り
2月	ひなかざり 3月：おひなさま	風船あそび・ハーバリウム作り
3月	ペットボトルマラカス 4月：さくら	木の球プール(大五木材)・避難訓練 館長杯カラオケ大会・しゃぼん玉あそび ハーバリウム作り

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

平成30年度事業報告

1. 経営方針

平成30年度は介護報酬プラス改定及び褥瘡マネジメント加算等が新設され、うみかぜでは褥瘡マネジメント加算に積極的に取り組み、ご利用者の褥瘡ゼロ対策に一定の成果を上げることができました。経営面で介護保険事業収入は増収となりましたが、ご利用者の骨折や体調不良による入院が重なり、うみかぜ入所稼働率目標（入院期間を除く）98%に対し、96.7%の実績でマイナス1.3%の結果となりました。

100%ノーリフトを目標に掲げ、ノーリフト対策の一環でノーリフトマシンを2台導入、対策委員会や勉強会を強化したことにより、看護・介護職員の腰痛が解消され、非常に成果があったと実感いたしております。

サービスの質の高い施設を目指し、新人職員の人材育成プログラムを確立いたしました。先輩職員の言葉遣い等の接遇面や、ご利用者生活空間の環境整備は徹底できておらず、新人職員の育成と共に、職員全体の資質向上が今後の課題となっております。

短期入所生活介護事業では、居宅介護事業所と細目に連携を取り、利用者やご家族に柔軟な対応を提供することにより、短期入所目標稼働率88%に対し、91.6%の稼働率となり目標を上回ることができました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

- ①介護技術向上に向け、積極的に研修に参加、施設内でも自主的な勉強会を開催した。
- ②地域清掃や地域の運動会・文化祭に参加し、地域共生社会へ向け交流を深めることができた。
- ③ご利用者の思いに添ったケアプランと24時間シートを作成し、こまめなカンファレンスやユニット会を開催し、柔軟な対応を実施できた。

(2)「確実な知識を技術」の習得

- ①各部署の新人職員の育成のビジョンとプログラムを作成し、職員育成に努めた。
- ②ノーリフト対策は100%浸透しており、成果を実感できている。
- ③看取り委員会発足後、職員全体の勉強会や看取り研修で研鑽し、ご利用者やご家族の求める看取りを行えるよう取り組んでいる。

(3)「堅実な経営」への取り組み

- ①毎月稼働率の報告を行い、稼働率未達成の月はフィードバックをし、次月稼働率達成へ繋げている。
- ②ご利用者の口腔ケアと健康管理は徹底しており、誤嚥性肺炎の罹患はなかったが、転倒による骨折が続き、入院期間が長くなり経営に影響があった。
- ③毎月の棚卸により、日用品・消耗品の管理ができ無駄を省くことができた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・感染症対策研修（動画活用）
- ・認知症ケア（年6回）
- ・緊急時の対応
- ・看取りケア研修（外部講師）
- ・ノーリフト対策研修
- ・ユニット会（1回/2カ月）

(2) 施設外

- ・愛媛県・東予地区老人福祉施設協議会主催の各研修会
- ・地域密着型サービス協会主催の各研修会
- ・社会福祉協議会主催の研修会
- ・介護支援専門員の各種研修会
- ・特定給食施設等関係者研修
- ・看護師職能研修会
- ・認知症介護実践リーダー研修会
- ・喀痰吸引の研修会

4. 行事实績

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 4月 花見外食 | 10月 運動会、太鼓祭り |
| 5月 ドライブ（菖蒲見物） | 11月 握り寿司、おでんバイキング |
| 6月 観音大祭、恵海まつり | 12月 クリスマス会 |
| 7月 七夕 | 1月 初詣、お茶会 |
| 8月 ビアガーデン、ワークキャンプ | 2月 節分、握り寿司バイキング |
| 9月 敬老会、芋炊き、防火訓練 | 3月 防災防火訓練 |

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・恵海まつり ・太鼓台訪問 ・多喜浜校区自治会との交流（運動会、文化祭他）
- ・近隣施設との交流（GHしおさい） ・運営推進会（年6回） ・家族懇親会
- ・めぐみカフェ ・地域清掃（月1回～2回） ・多喜浜保育園

(2) ボランティア受入れ

- ・歌、コーラスグループ ・楽器演奏会 ・生花講師 ・和太鼓 ・よさこい連

グループホーム
かがやき

平成30年度事業報告

1. 経営方針

平成30年度は、「かがやき」では介護報酬・基本報酬の改定はありませんでしたが、新設加算である口腔衛生管理体制加算、栄養スクリーニング加算に取り組み、誤嚥性肺炎防止及び適切な栄養状態の把握・改善に努め健康管理を強化いたしました。

また、ご家族の要望によりグループホームで初めて看取りを実践いたしました。ご利用者に寄り添い、ご家族と共に最期を迎えた看取りは貴重な経験であり、これからのグループホームの在り方を学び、職員は成長に繋がったと実感しております。

しかし、残念なことにグループホームでは、虐待の疑いが発生し、新居浜市へ通報する事態がありました。今後は、更にユマニチュード技法やアンガーマネジメントの徹底を浸透させることが、重大な課題となっています。

かがやき入所稼働率目標（入院期間を除く）99%に対し、98.6%の実績でマイナス0.4%の結果となりました。これは、ご利用者の転倒による骨折が2件発生し、入院となったことが原因となっております。認知症ご利用者の行動を予測し、リスク回避ができるよう事故防止委員会や研修会で職員の意識向上に努めて参ります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

（1）「誠実な福祉」の実践

- ①介護技術向上に向け、積極的に研修に参加、施設内でも自主的な勉強会を開催した。
- ②地域清掃や地域の運動会・文化祭に参加し、地域共生社会へ向け交流を深めることができた。
- ③夢プランを計画し、ご利用者の思いや希望を叶える個別対応を行えた。

（2）「確実な知識を技術」の習得

- ①各部署の新人職員の育成のビジョンとプログラムを作成し、職員育成に努めた。
- ②口腔ケアと栄養スクリーニングの知識を向上させ、ご利用者の健康管理を強化した。
- ③看取り委員会発足後、職員全体の勉強会や看取り研修で研鑽し、ご利用者やご家族の求める看取りを行えるよう取り組んでいる。

（3）「堅実な経営」への取り組み

- ①毎月稼働率の報告を行い、稼働率未達成の月はフィードバックをし、次月稼働率達成へ繋げている。
- ②ご利用者の口腔ケアと健康管理は徹底しており、誤嚥性肺炎の罹患はなかったが、転倒による骨折が続き、入院期間が長くなり経営に影響があった。
- ③毎月の棚卸により、日用品・消耗品の管理ができ無駄を省くことができた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・感染症対策研修（動画活用）
- ・認知症ケア（年6回）
- ・緊急時の対応
- ・看取りケア研修（外部講師）
- ・ノーリフト対策研修
- ・ユニット会（1回/2カ月）

(2) 施設外

- ・地域密着型サービス協会主催の各研修会
- ・社会福祉協議会主催の研修会
- ・青年経営者会主催の研修会
- ・介護支援専門員の各種研修会
- ・特定給食施設等関係者研修
- ・認知症介護実践者研修会
- ・感染症セミナー
- ・グループホーム見学及び運営研修会

4. 行事实績

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 4月 花見外食 | 10月 運動会、太鼓祭り |
| 5月 ドライブ（菖蒲見物） | 11月 握り寿司、おでんバイキング |
| 6月 観音大祭、恵海まつり | 12月 クリスマス会 |
| 7月 セツ | 1月 初詣、お茶会 |
| 8月 ビアガーデン、ワークキャンプ | 2月 節分、握り寿司バイキング |
| 9月 敬老会、芋炊き、防火訓練 | 3月 防災防火訓練 |

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・恵海まつり
- ・太鼓台訪問
- ・多喜浜校区自治会との交流（運動会、文化祭他）
- ・近隣施設との交流（GHしおさい）
- ・運営推進会（年6回）
- ・家族懇親会
- ・めぐみカフェ
- ・地域清掃（月1回～2回）
- ・多喜浜保育園

(2) ボランティア受入れ

- ・歌、コーラスグループ
- ・楽器演奏会
- ・生花講師
- ・和太鼓
- ・よさこい連

児 童 福 祉 施 設
中萩保育園

平成 30 年度 事業報告

1、経営方針

平成 30 年に改正された保育所保育指針について職員間で理解を深め、子ども達が安心して生活ができるよう応答的で丁寧な保育を行ってきました。また、支援を必要とする子どもと一緒に生活する中で「共に育ちあう保育」を目指してきました。その中で、子どもは一人として同じ子はおらず、一人一人の個性を大切にしたい保育、無条件で愛される体験の必要性を改めて考えさせられました。今後も職員間で同じ方向性を持ち、共有しながら「個」を大切にしたい保育に努めたいと思います。

子どもの育ちには家庭保育が重要です。養育に不安な保護者の気持ちを受け止め、子どもの育ちを丁寧に伝え、共に喜び合いながら子育て支援を行ってきました。子どもについて保護者と連携を図り、信頼関係を築くことで安心して預けられる保育園、また、地域に根差した中核保育園になるよう、続けて取り組んでいきたいと思っています。

平成 29 年度より新設された処遇加算Ⅱの加算要件であるキャリアアップ研修が愛媛県の委託を受け、愛媛県保育協議会が主催、実施することになりました。研修を通して専門職としての学びを深め職員の資質向上、専門性の向上に努めています。

また、2022 年までに加算要件が満たされるよう、研修を計画的に進めていきたいと思っています。外部研修で得た知識や技能を職員間で共有し、保育園全体で質の向上に繋げていけるよう協働を図り、「みんなが育つ職場づくり」を行っていききたいと思っています。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
- ・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができた。今後も生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
- ・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていききたい。
- ・戸外遊び(鬼ごっこ、雲梯、鉄棒等)を通して体力づくりに取り組んできた。

- ・自然農園やキラキラ公園まで散歩に行き自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（長谷川 Dr）、藤田歯科クリニック（藤田 Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。
- ・住友病院眼科スタッフによる年中児の眼科検査、発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による巡回相談、就学前相談を受け、サポートファイル等を作成することで支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができクラスの一員として協調できるように保育している。
- ・愛媛聾学校、視聴覚センター、鷹ノ子病院の医師と連携をとり、聴覚障害児への支援を深めることができた。子どもの成長を通し保護者の子育てへの意識が変化した様子がうかがえた。喜びへとつながった。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。授業参観、話し合いによる情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成など小学校との連携を取っている。運動会、お祭り集会などにも参加した。子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。
*各機関との連携は今後も大切にしていきたい。
- ・上部児童センター運営協議会に参加、子どもを中心に地域との交流を深め健全育成に係ることができるよう意見交換を行った。
- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を話し合ったり、夕涼み会、クリスマス会等の行事に招待したり、慰問に行ったり交流を深めている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。30 年度も施設強化加算の申請を行い、バッテリー付き充電器を購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し保護者にも知らせている。
- ・セコムに依頼し防犯対策に努めている。
*今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで防災、防犯意識を高めていきたい。

(2)「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。また、保育協議会主催のキャリアアップ研修を受け知識を深めることに繋げた。

- ・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。今後も職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。

＊日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。

＊今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していって欲しい。

②専門性の充実

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。
- ・全体計画に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。
- ・看護師による健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。また、職員に嘔吐物処理の仕方について講習を行い、職員間での周知を図った。
- ・栄養士が育児休業中のため、保育士、調理員が話し合いながら食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）を行った。また、アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供を行った。

＊毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・職員の育児休業復帰に伴い、7名の途中入所児の受け入れを行うことで収入増に繋がった。
- ・保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、遊具の塗装、危険個所の修繕を随時行った。
- ・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。
- ・職員間で話し合い備品チェックを行いながら無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

(1) 施設内

職員会（クラスの状況報告、気になる子について、給食検討、けがの報告等）、安全対策委員会、先任者会、主任会

(2) 施設外

保育協議会主催の研修、キャリアアップ研修、日本保育協会主催の研修、

保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）

日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育

三恵会本部主催の研修

4、行事实績（年間）

- 4月 入園式、家庭訪問、園児健康診断、園児歯科検診、年長児発音検査
 - 5月 野菜の収穫、遠足、保育参観（試食会）、年中児眼科検診、
看護の日（ユリノキ病院より花プレゼント）
 - 6月 わくわくお楽しみ会、プール開き
 - 7月 プラネタリウム見学、七夕集会
 - 8月 プール大会（バイキング給食）
 - 9月 敬老の日ハガキ投函
 - 10月 運動会、お祭り集会、中萩小学校のお祭り集会に参加、交通安全教室、
生き生きフェスティバル作品出展、園児歯科検診
 - 11月 親子遠足、シルエット劇場観覧、プーク人形劇観覧、職場訪問、園児健康診断、
中萩文化祭作品出展、やすらぎの郷文化祭作品出展・鼓隊演奏出演、
火遊び防止教室
 - 12月 保育参観、おもちつき、クリスマス会、むつみの家クリスマス会参加、
新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出
 - 1月 もうすぐ1年生撮影
 - 2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、祖父母招待、記念撮影
 - 3月 ひな祭り集会、人形劇ふきのとう観覧、交通安全教室、お別れ遠足、お別れ会、
卒園式
- ＊毎月実施…誕生会、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習生

（1）地域交流状況

夕涼み会、運動会、発表会などに地域の方を招待した。

（2）実習生受け入れ

松山東雲短期大学（2名）

今治明德短期大学（1名）

聖カタリナ大学短期大学部（1名）

大阪医療秘書福祉専門学校（1名）

（3）体験学習の受け入れ

中萩中学校（5名）

角野中学校（7名）

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

平成30年度 事業報告

養護老人ホーム新居浜市立慈光園

1. 運営方針

老人福祉法に基づく養護老人ホームとして、環境上及び経済上の理由により在宅において生活することが困難な方に対し、心身の健康を保つとともに生きがいのある日常生活が送れるように努める中、利用者の心身の低下による支援の増加、精神疾患を持った方や生活困窮者の入所が多くなるなど自立支援困難者の増加に伴い利用者の個人差が大きくなる中で、一人ひとりのADLに応じた処遇計画を作成し、介護保険サービスの利用や地域交流、園内行事を通じて健康維持を行い、自主性をそこなわず安心して生活が送れるよう支援に努めました。

このような中で、社会復帰の促進及び自立を目的とし職員が利用者に対し必要な指導及び訓練その他の援助を行い、その結果実を結び、入園中の利用者をもとの一般社会の生活に送り出す実績ができました。

感染症対策では、インフルエンザが県内においても拡張し警報が発令される中、感染症対策を職員、利用者に早めに周知することで感染者の拡張もなく最小限に抑えることができました。

また、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活が送れるよう自立支援に必要で利用者個々に応じたデイケアやデイサービスの利用を進め、利用者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)「誠実な福祉」の実践

- ①利用者個々の状態に応じて個別処遇計画に係るPDCAサイクルに取り組み実践に努めました。
- ②出前講座の開催や他の団体が主催するイベント等へ出展、創作活動などを積極的に推進し、生活意識の向上に努めました。
- ③嗜好調査の実施により季節感や彩に配慮した食事提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。
- ④夏祭りを開催し地域住民の方々の参加をいただき地域交流に努めました。
- ⑤毎月、園近隣における清掃活動を実施するとともに、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。
- ⑥台風時における指定避難所としての役割を努めました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①愛媛県老施協主催における第14回愛媛県老人福祉大会の分科会において利用者が地域交流を通じて、金栄校区住民と金栄小学校が協力して行っている「金栄見守り隊」の趣旨、様子等をプロジェクトチームを結成しプレゼンテーションにて愛媛県老人福祉大会で発表することができました。
- ②愛媛県老人福祉協議会等が開催する各種研修会に参加し知識と技術の向上を目的とした人材育成に努めました。

(3) 「堅実な経営」への取組み

- ①毎月の予算執行管理を確実にするとともに、財務諸表の点検、月々の変動、経年変化、前年同月比較を実施し経営管理を行いました。
- ②物品の適正な在庫管理に努め、購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ③デマンド量の監視により電気使用状況を把握し抑制に努めるとともに、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少に努めました。
- ④ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルスケアを行いました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ①職員全体会（月1回） 主任会（月1回）
- ②出前講座
AED講習、骨盤ダイエット講座、ツボ体操、折り紙教室、防災訓練講習
尿漏れケア、ツボでセルフケア

(2) 施設外研修

- ①老人福祉施設協議会（愛媛県、東予地区、新居浜市）の研修会
- ②東予感染管理サークル主催の研修会
- ③新居浜社会保険事務所主催の研修会
- ④三恵会法人本部主催の研修会
- ⑤十全ユリノキ病院主催の研修会

4. 行事実績

- 4月 春のショッピング・お花見歩行会
- 5月 芍薬見学
- 6月 菖蒲見学
- 7月 慈光園夏祭り・防災訓練

- 8月 かき氷パーティー
- 9月 敬老会
- 10月 秋のショッピング・運動会・防災訓練・生き生きフェスティバル
- 11月 紅葉ドライブ・金栄校区文化祭
- 12月 クリスマス会・餅つき大会
- 1月 初釜
- 2月 節分
- 3月 お楽しみ会

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

慈光園夏祭り・生き生きフェスティバル・金栄校区文化祭・春秋太鼓台訪問
地域清掃・金栄見守り隊

(2) ボランティア受入

唄クラブ・お話会クラブ・俳句クラブ・童謡クラブ・絵手紙クラブ
書道クラブ・ラフターヨガ・十全保育園・さくら乳児園・一宮グループ
新居浜南中学校・新居浜西中学校